

何時も挨拶ありがとう。
今年は新型コロナウイルス感染症の為に、長い間の学校も有り大変でした。でも先日久し振りに会い元気がなりました。



朝、校門のところらに立っている3年生の並河静愛来さん(柔道部神戸・夢野中)が「通学途中にいつも出会う、挨拶をもらっている方から手紙という報告をしてくれました。本人の承諾の上紹介させていただきます(一部省略しています)。

9月には試験が有るとの事合格祈願のお守りですが身に付けて頂けると幸いです。立派な社会人となりご両親を安心させて下さいね、貴女なら大丈夫です。足の怪我中も頑張って走り込みをしていましたね。まだ、完治はしていない様子ですが、貴女の頑張りで克服して下さいね。私も見守り今年10年目になりましたが、まだまだ貴女に負けないよう頑張ります。妻も言っていますが最近少し痩せた様子、大丈夫ですか？3年生はこれから忙しくなりますね、これから会う機会も少なくなるかと思いますが、会った時は今まで通り声を掛けて下さいね。

6月19、20日に元町駅前にて生徒会・ボランティア同好会が新型コロナウイルス医療従事者への支援募金活動を行いました。その活動は新聞やテレビでも取り上げられました。

ボランティア活動

何時までも応援しています。
令和2年6月25日

大きな声でよく挨拶をする神港学園高校の生徒への応援メッセージのようにも感じられます。ありがとうございます。

18万円を超える募金が集まり、7月に神戸市と兵庫県の方に寄付をしました。それぞれから感謝状をいただきました。兵庫県では、テレビでも映される対策会議が開かれる部屋に入れてもらいました。



ちょっと一言 「辛(つら)いという字がある。もう少しで幸せになれるような字である。」これは星野富弘さんという人の言葉です。星野さんは元中学校の体育の先生でしたが部活動中に事故に遭い首から下の感覚を失いました。しかし、人工呼吸器につながれ高熱にうなされている富弘さんに「わが身を切り刻んでも生きる力を体の中に送り込みたい」というお母さんの献身的な看病で救い上げられました。絶望の淵から、口で筆をとり、絵と言葉(詩文)を一体化させた詩画作品を制作するようになりました。ずっしりとした重みを感じる言葉です。